

第 5 回日本薬学教育学会大会 ワークショップ開催趣旨書

タイトル	「評価」ではなく学生の成長を促す「目標」としてのルーブリックをつくろう
オーガナイザー	1. 近畿大学薬学部 教授 松野純男 講師 帝京平成大学薬学部 教授 亀井美和子 北里大学薬学部 教授 有田悦子
概要	<p>近年いわゆる「パフォーマンス評価」のツールとしてもはやされるルーブリックであるが、本来の目的は、学習者に「具体的な評価基準」を提示することで、が自らの立ち位置を自覚させ、より高い次元の目標を目指そうと意欲的に学ぶための指標である。そのためには、学習者に目標をわかりやすく簡潔にまとめ、各授業ごとに具体的に提示することが重要である。また、評価においては「十分に満足できる」A 評価に加え、プラスアルファの目標である S 評価を導入することで、学習者に本来の力以上の成長を促すことが可能である。</p> <p>本ワークショップでは、黒上の方法¹⁾に従い、講義科目 15 コマでの目標を具体的に設定し、どのように学習者の成長を促すべきかをグループで考えるワークショップを設定する。例として 1 年前期に行われる「薬学概論」「薬学への招待」などの導入講義を用いて目標設定を行う。</p> <p>1) 黒上晴夫. 見える「評価」で授業が変わる!～ルーブリックで授業作り～[Internet]. Just School 実践事例レポート; 2007 年 5 月 15 日 (参照 2018 年 3 月 3 日)</p> <p>2) 松野純男, 八軒浩子: 薬学教育, 2, 159-166 (2018)</p>